

丸山眞男文庫創立等関係記事

丸山眞男文庫受贈式行われる

戦後の学問と論壇に大きな影響を与えた政治学者・故丸山眞男氏の蔵書約三万冊・自筆資料等約三万ページ相当分が、いよいよご遺族より本学へ寄贈される運びとなった。

去る九月二一日(月)午後一時三〇分より、本館二階第五会議室において丸山眞男文庫受贈式が執り行われた。

出席者は、丸山ゆかり氏(故・丸山眞男氏夫人)、丸山氏に学び、氏の著作の編集と蔵書、資料の整理に当たってきた飯田泰三(法政大教授)・平石直昭(東大教授)・松沢弘陽(国際基督教大教授)・宮村治雄(都立大教授)・渡辺浩(東大教授)の各氏、卒業生の牛田尚子氏、松沢望氏(蔵書記録担当)、大学側からは林宏評議員会議長、船本学長、佐久間合同研議長、井上文理学部長、竹田現代文化学部長、室伏図書館長、大隅丸山眞男文庫準備委員長、今井・森・黒沢同委員、下出図書館委員、保々事務局長など約二十名ほどであった。

☆

まず、保々事務局長を進行役として、丸山ゆかり氏と船本弘毅学長が会場正面にしつらえられた席に移り、「覚書」を取り交わした。

☆

その後、船本学長より、関係各位へのお礼の挨拶があった。学長は、「凡そ真なること」という建学の精神を求め続ける本学に丸山文庫が収められることによつて、本学をこれまでにも増してこれからの日本の方向性を追求して行く良き研究と教育の場にして行きたい、また、丸山氏が生涯をかけて追求した自由・平等・平和・民主制、といった思想の研究教育の拠点として行きたい、と述べ、さらに、私たちは心を尽くしてこの文庫を守り育て、多くの人に活用されることによつて、丸山氏の遺志がこの国に受け継がれて行くように努力をして参りたい、と挨拶を締めくくった。

☆

次に丸山ゆかり氏はご挨拶の中で、「生前丸山は、自分の蔵書はいわゆる著名大学よりもライブラリーの充実に苦しんでいる新しい大学・研究機関・あるいは自治体の図書館に寄贈したいという考えを持っておりました。しかし最終的には、東京女子大学で貰ってくれないだろうか……。」という気持ちになったようでございます。多くの皆様のご

尽力のお蔭で本日受贈式が行われ、丸山の蔵書を一括して引き受けて頂くことが正式に決定いたしました。本当に嬉しゅうございます。今後、御学の十分な管理のもとに、多くの研究者の方々のお役に立てて頂けますこと、丸山の魂もどんなにか安堵し喜んでいふことと存じます」と語った。

☆

大学側からは続いて室伏図書館長が挨拶し、丸山文庫を今後どのように整理、保管、活用すべきかという難問を抱え、感激とともに恐れを抱いている、かつて大江健三郎氏が丸山氏の文体の美しさに言及しているが、丸山氏は専門の政治学のみならず、音楽に対する深い造詣でも知られるなど幅広く活躍されたので、近代における偉大な研究者として各方面から今後研究されるものと思われる、慎重かつ迅速に蔵書・資料の受入れに精進したい、と決意を語った。

☆

続いて大隅丸山眞男文庫準備委員長が挨拶し、昨年十一月末に丸山家側より「故人の蔵書を寄贈するに当たって東京女子大学を候補の一つと考えられるだろうか」という趣旨の電話があり、翌日大学で関係者と相談の上、候補として応募したい旨回答した。十二月の初め丸山家より「東京女子大学に差し上げたい」という連絡があり、これを受けて直ちに学内関係者の了解を受け、十二月の理事会に取次いだ、という受贈決定までの経過説明があった。

なお、丸山氏の蔵書がいよいよ本学に運び込まれることになるので、

然るべき時期に準備委員会の「準備」の文字を取り、丸山眞男文庫委員会へ移行したいと考えているが、その折は、東京女子大学の中だけではなく学外からも委員に加わってもらふ予定である。また、今後、毎年一度、丸山眞男文庫行事として講演会を開きたいとの計画を明らかにした。

☆

最後に、松沢弘陽氏より、丸山氏と東京女子大学との結びつきなどについてお話があった。

松沢氏は、当時の図書館長であった大隅委員長と親交があったことから、丸山夫人が東京女子大学への蔵書等の寄付を考えられた際、女子大の意向を尋ねるよう依頼されたという。

丸山眞男氏にとって、隅谷三喜男元学長や京極純一元学長は親しい人々であり、丸山氏に学んだ植手通有氏がかつて本学史学科助教教授であったこともあり、女子大に親しみを持っておられ、比較文化研究所のシンポジウムにも参加された。また、一九八〇年代後半、丸山氏は女子大同窓会の幼児グループ「母の会」の読書会に招かれたのを機に関わりを持つようになった。ことに会の中心の牛田尚子（67史卒）氏の存在は、今日に至るまで丸山氏と夫人にとって大きな意味を持っている。丸山氏の蔵書や資料が女子大での研究や教育の手段として役立つだけでなく、丸山研究の資料として公共的な文化財でもあり、公共の用にも供して頂きたいというのが丸山氏に学んだ者の願いである。東京女子大学は Service and Sacrifice というモットーを生かし

て、日本あるいは世界のパブリックのために文化的な Service and Sacrifice をお願いしたい。またそのため今後、本学の希望があればできるだけ協力したい、と結んだ。

☆

この後、当日ご出席の、丸山氏に学んだ前記の方々の自己紹介がなされ、さらに、本学関係者の紹介があり、一時間余りに亘る受贈式は終了した。

式のあと、会場の後方にしつらえられたテーブルの周りで茶話会が催され、歓談の時を持った。

〔『東京女子大学学報』五三〇号、一九九八年一〇月号所収〕